

早稲田大学国際日本文学・文化研究所(WIJLC)、フランス国立東洋言語文化研究学院(INALCO)共催 比較文学研究室協賛 国際シンポジウム「記憶の痕跡」第3回の活動報告

10月13日(土)に、早稲田大学戸山キャンパス39号館第7会議室にて、国際シンポジウム「記憶の痕跡 第三回」が開催された。このシンポジウムは、早稲田大学国際日本文学・文化研究所とフランス国立東洋言語文化研究学院(INALCO)が共催し、早稲田大学比較文学研究室が協賛して行われた。早稲田大学国際日本文学・文化研究所とINALCOは、共同研究として「記憶の痕跡」をテーマとするワークショップを継続的に開催しており、第一回目の2010年、第二回目の2011年に引き続いて、今回が第三回目にあたる。

当日のプログラムは、午前の部・午後の部(I~III)・討議、の全3部構成で進められた。まず、午前の部(司会:十重田裕一)と午後の部(司会:Anne Bayard-Sakai(I)・丹尾安典(II)・千葉文夫(III))では発表者が各自20分の報告を行ない、その後、参加者全員による全体討議が行われた。今回の発表者は早稲田側9名、INALCO側7名の総勢16名で、それぞれの報告では、「記憶」とエクリチュールの問題の他に、音楽、美術、映像、演劇、文化施設等の観点からも新たな方向性が提示された。当日は、発表者の多彩な報告と討議に加えて、朝から多くの来場者も参加し盛況であった。

(報告 塩野加織)

